

Setting Up the PDS

'99 Spring Edition

Windows NT 版 PDS 6.3.1 のインストールおよび初期設定を行う際の手順を示す。なお、以下のバージョンのソフトウェアを使用するものとする。

Software Versions

Windows NT (英語版/日本語版)	4.0
Windows NT Service Pack	3
MicroStation	SE (5.7)
PDS 3D	6.3.1
ISOGEN	6.3.1
PDS 2D	6.3.1
EE Raceway	6.3.1
FrameWorks Plus	3.1
NTBATCH	3.2
IPLLOT (Server/Client)	9.0
IPLLOT Driver Pack	2.2
Oracle	8.0.4
RISORADS	5.5

1. Windows NT のインストール

Windows NT をインストールする際の注意点を以下に示す。

- RAID のコンフィグレーション
RAID 装置が内蔵/接続されているマシンでは、Windows NT のインストールを開始する前に、RAID の設定を行う。また、RAID のコンフィグレーションをフロッピーディスクに保存する。
- パーティションの作成
Windows NT のインストールを開始した後、インストール先パーティションの指定を行う前に、可能な限りパーティションの作成を行っておく。
- インストール先フォルダ
デフォルトの C:\WINNT に対してインストールを行う。
- ライセンスモード(Windows NT Server のみ)
ライセンスモード(Per Server / Per Seat)を選択する。Per Server の場合は、Client Access License (OS 付属分 10 + 購入分)の登録を行う。
- Computer Role (Windows NT Server のみ)
コンピュータの役割(Primary Domain Controller / Backup Domain Controller / Stand Alone Server)を選択する。
- Repair Disk
OS のインストールの際には作成しない。
- Setup Options (Windows NT Workstation のみ)
Typical を選択する。
- Select Component
デフォルトのままインストールを行う。 (Windows NT Server)
Install the most common components を選択する。 (Windows NT Workstation)
- Microsoft Internet Information Server
ファイルサーバとなるマシンでは、IIS (Internet Information Server)のインストー

ルを行う。Windows NT Workstation マシンをファイルサーバとして使用する場合は、OS のインストール終了後、PWS (Peer Web Services)をインストールする。

■ Network Protocol

使用するネットワークプロトコルを選択する。なお、TCP/IP は必須となる。場合により、NetBEUI, NWLink IPX/SPX, DLC Protocolなどを追加する。

■ DHCP

使用しない。

■ TCP/IP

アドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイの設定を行う。

■ IIS / PWS

Internet Service Manager および FTP Service をインストールする。フォルダなどの設定はデフォルトを使用する。

■ Clock

Time Zone を GMT+9 にし、正確な時刻を設定する。

■ Display Driver Configuration

Windows NT のインストール終了後、再度設定を行うため、デフォルトの設定にしておく。

2. Windows NT の設定

Windows NT のインストール終了後、他のソフトウェアをインストールする前に、以下の設定を行う。

- Num Lock および Welcome ダイアログボックスの設定
Administrator としてログオンを行う。キーボードの Num Lock をオンにし、ログオフする。再度ログオンし、Welcome to Windows NT ダイアログボックスの Show this Welcome Screen... オプションをオフにする。
- パーティションのフォーマット
未フォーマットのパーティションが存在する場合には、フォーマットを行う。
- Display Driver
ディスプレイドライバをインストールし、マシンの再起動を行う。

サーバの場合

17 inch 以下のモニタを使用する場合は 1024 x 768 ドット 256 色以上、
17 inch 以上のモニタを使用する場合は 1280 x 1024 ドット 256 色以上に設定し、マシンの再起動を行う。

TD の場合

1280 (Dual の場合は 2560) x 1024 ドット 65536 色(High Color, 16-bit)以上に設定し、マシンの再起動を行う。

- 各種ドライバのインストール
RAID、ECC Memory、サウンド、マウス、テープデバイスなどのドライバを、必要に応じてインストールする。
- InterSite アプリケーションのインストール
Intergraph 製マシンの場合、Version Manager, InterSite Manager などのインストールを行う。
- Client Access License の登録(Windows NT Server のみ)
ライセンスモードが Per Sert の場合、Administrative Tools の License Manager を

起動し、Client Access License (OS 付属分 10 + 購入分)の登録を行う。なお、Product の指定(BackOffice / NT Server)に注意する。

■ PWS のインストール

Windows NT Workstation マシンをファイルサーバとして使用する場合は、PWS (Peer Web Services)のインストールを行う。Internet Service Manager および FTP Service をインストールする。フォルダなどの設定はデフォルトを使用する。

■ Full Drag の設定解除

Display の Properties を表示し、Plus!の Show window contents while dragging オプションをオフにする。

■ Windows NT Explorer

View Toolbar でツールバーを表示する。また、全てのファイルが表示されるよう、View Options で Show all files に設定する。さらに、Display the full path in the title bar をオン、Hide file extensions for known file types をオフに設定する。

■ ウィンドウのサイズ

Windows NT Explorer, Event Viewer, User Manager for Domains, Registry Editor などのウィンドウのサイズを適切に設定しておく。

■ Event Viewer

Log Settings の Event Log Wrapping を、Overwrite Events as Needed に設定する (System, Security, Application)。

■ HOSTS / LMHOSTS ファイル

HOSTS / LMHOSTS ファイルを作成する。

■ Windows NT Service Pack

Windows NT Service Pack 3 のインストールを行う。

3. アプリケーションソフトウェアのインストール

アプリケーションソフトウェアをインストールする前に、レジストリを設定を行う。

- 1) レジストリエディタ(Regedt32.exe)を起動する。
- 2) Add Key コマンドにより、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE に Intergraph というキーを作成する。
- 3) Add Value コマンドにより、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intergraph に以下の値を追加する。

Value Name:	Common
Data Type:	REG_SZ
String:	c:\win32appl\ingr\share

また、OS が Windows NT の日本語版の場合、コントロールパネルで地域の設定を行う。

- 1) コントロールパネルを開く。
- 2) 地域アイコンをダブルクリックする。
- 3) 最初に表示される地域タブで、英語(U.S.)を選択する。
- 4) OK ボタンを選択する。

各アプリケーションソフトウェアは、以下の順序でインストールを行う。

- 1) Oracle
- 2) RISORADS
- 3) (DiskShare / DiskAccess)
- 4) MicroStation SE
- 5) NTBATCH
- 6) IPLOT Server
- 7) IPLOT Driver Pack
- 8) IPLOT Client
- 9) PDS (+ ISOGEN)
- 10) その他のアプリケーション

以下に、各アプリケーションソフトウェアをインストールする際の注意点を示す。

- Oracle
言語として英語(English)を選択し、インストール先フォルダを C:\ORANT に設定する。Custom Installation を選択し、Oracle Documentation, Oracle Installer, Oracle8 Enterprise Edition をインストールする。Starter Database は作成しない。Legato Storage Manager (LSM)はインストールしない。なお、Oracle Documentation を正常に参照するためには、Netscape Navigator 3.0 以上、または Internet Explorer 3.0 以上のいずれかが必要になる。
- RISORADS
インストール先フォルダを C:\WIN32APP\INGR\RISORADS に設定する。
- DiskShare / DiskAccess
インストール先フォルダを C:\WIN32APP\INGR\以下に指定する。なお、この 2 つのソフトウェアは、インストールの際、レジストリ(Intergraph\Common)の値を必ず変更してしまう。このため、インストール終了後、再度 Intergraph\Common を c:\win32app\ingr\share に設定する。
- MicroStation SE
c:\win32app\ustation にインストール(Complete)する。
- NTBATCH
c:\win32app\ingr\ntbatch にインストールする。
Do you want jobs to have access to the desktop?に対し Yes、
Do you want to run all job as the same user?に対し No を選択する。
- IPLOT
Server, Driver Pack, Client の順でインストールを行う。インストール先フォルダをデフォルトから変更する必要はない。
- PDS (+ ISOGEN)
各コンポーネントをデフォルトの設定でインストールを行う。なお、RISORADS がインストールされている場合には、RISSHARE のインストールは行わない。
- その他
必要に応じて、DesignReview/Smart Plant Viewer/Imagination Engineer などのソ

ソフトウェアをインストールする。DesignReview 3.7 をインストールする場合、インストール先フォルダの変更を行う必要はない。

- マシンの再起動

全てのソフトウェアをインストールした後、マシンの再起動を行う。

4. ソフトウェアインストール後の設定

全てのソフトウェアをインストールした後、以下の設定を行う。

■ 環境変数の定義

以下のように、環境変数を定義する。

NQS_job = 1	システム環境変数
MS = C:\WIN32APP\USTATION	ユーザ環境変数

■ 環境変数 Path の設定

環境変数 Path に不適切な部分があれば修正する。特に、空白文字を含むフォルダ名や、ダブルクォーテーション(")の削除を行う。

■ レジストリ winreg の削除(Windows NT Server のみ)

Windows NT Server の場合、以下のレジストリ winreg を削除する。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet
\Control\SecurePipeServers\winreg
```

■ IIS / PWS (FTP Server) の設定

Microsoft Internet Server から Internet Service Manager を起動する。FTP Service Properties の Service タブを表示し、Allow only anonymous connections オプションをオフにする。また、Directories タブを表示し、以下のように各ドライブの Alias を追加する。なお、ホームディレクトリ(C:\inetPub\ftproot)は変更しない。

Directory	Alias	Access
C:	/C:	Read / Write
D:	/D:	Read / Write

■ RIS の設定

日本語 NT 上では、RIS で使用する言語を English に設定しておく必要がある。C:\win32app\ingr\share\ris05.xx\config\langs ファイルの読み取り専用属性をオフに設定し、以下のように編集する。

```
3 |japanese          |japanese          |0x0411|932|Japanese
```

上記の行を、次のように変更する。

```
3 |english           |english           |0x0411|932|Japanese
```

■ PDS Queue の作成

PDS Queue を起動し、Batch Queue を作成する。ISOGEN のバッチ処理を他のマシンで実行する場合には、PD_ISO 関連の Queue を Pipe Queue とする。

■ NTBATCH の Account Mapping

Batch Manager を起動し、** = DOMAIN\Administrator などのように Account Mapping を定義する。また、ウィンドウのサイズを適切に設定する。

■ umenu ファイルのコピー

c:\win32app\ingr\pdshell\menu\umenupref.55 ファイルを以下のファイルにコピー(上書き)する。

```
c:\win32app\ingr\pdshell\menu\umenupref.rsc
```

```
c:\win32app\ingr\pds2d\cfg\pds2d.upf
```

c:\win32app\ingr\pds2d\cfg\pds2d.ucf ファイル内の _USTN_USERINTNAME の行をコメントにする。

```
# _USTN_USERINTNAME = v50
```

また、c:\win32app\ingr\eenuc\sym\eeepref.55 ファイルを以下のファイルにコピー(上書き)する。

```
c:\win32app\ingr\eenuc\sym\eeepref.rsc
```

■ PDS ライセンス

ライセンスのインストール、またはライセンスサーバの登録を行う。

- SetFormScale

Dual モニタのマシンの場合は、PDS 2D Tools の SetFormScale により、Form Scale Factors を $X = 0.5$, $Y = 0.5$ に設定する。

- FWP Envelope Builder の更新

FrameWorks Plus 03.01.01.07 以降を使用する場合、FWP 用 Envelope Builder の更新を行う。Command Prompt 上で `c:\win32app\ingr\fwplus\bin` ディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行する。

```
clashupd c:\win32app\ingr\pdclash\bin
```

- DesignReview 3.7 の Fix 版

DesignReview 3.7 がインストールされているマシンでは、最新の Fix 版を適用する。

- IPlot Driver Pack

日本語版 OS の場合は、`C:\winnt\inf\ipdrvpc.inf` ファイルの修正を行う。「Oc・」, 「Oc 饅」のように表示されている部分を、「Oce」に変更する。その際、前後のクォーテーションマーク、空白、括弧などに注意する必要がある。なお、「Oc・」, 「Oc 饅」は、英語版の OS では「Océ」と表示される。

- プリンタ/プロッタ

IPlot サーバでは、使用するプリンタ/プロッタに合わせて、共有プリンタの作成を行う。また、ドキュメントの既定値やプロパティなどの設定を行う。

- ユーザプロファイルのコピー

My Computer のプロパティを表示し、User Profiles タブを選択する。Administrator のプロファイルを選択して Copy To... ボタンを選択する。`c:\Winnt\Profiles\Default User` をコピー先として指定し、Permitted to use に Everyone を指定する。

- Repair Disk の作成

Repair Disk Utility (rdisk.exe)を起動し、Update Repair Info ボタンを選択する。サーバマシンの場合は、フロッピーディスクを挿入し、Repair Disk を作成する。

全ての設定作業を行った後、動作確認を開始する前にマシンの再起動を行う。